

第5回円空大賞

李禹煥（りうふあん）

プロフィール

- 1936年：韓国慶尚南道に生まれる
- 1956年：ソウル大学校美術大学を中退し、来日
- 1961年：日本大学文理学部哲学科を卒業
- 1967年：東京で初個展を開催
- 1969年：評論「事物から存在へ」が美術出版社・芸術評論に入選
- 1975年：パリで個展。以来、毎年各国で個展・美術展に参加
- 1977年：第13回現代日本美術展東京国立美術館賞受賞、「ドクメンタ6」（カッセル、ドイツ）に出品
- 1979年：第11回東京国際版画ビエンナーレ京都国立近代美術館賞受賞
第1回ヘンリー・ムーア大賞展優秀賞受賞
- 1986年：多摩美術大学教授に就任
- 1993年：神奈川県立近代美術館（鎌倉市）で個展
- 1994年：韓国、ソウル国立現代美術館で個展
- 1996年：フランス、サンテティエンヌ近代美術館で「モノ派」展
- 1997年：フランス国立高等美術学校招聘教授に就任
- 2000年：上海ビエンナーレユネスコ賞受賞
- 2001年：クンストムセウムボン（ドイツ）個展、高松宮殿下記念世界文化賞絵画部門受賞
- 2005年：第47回毎日芸術賞受賞
- 2007年：第53回ベニスビエンナーレ個展
- 2008年：王立ブリュッセル美術館（ベルギー）個展



選評

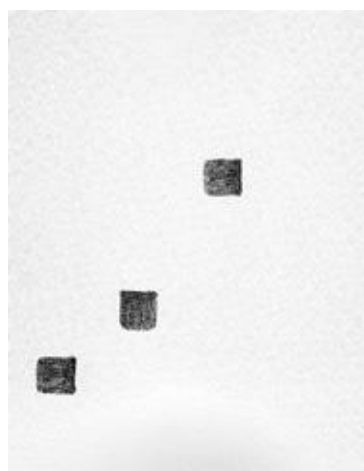
円空大賞の李禹煥氏は韓国出身の作家であるが、早くから日本を舞台にして創作活動を展開し、今や東アジアを代表する芸術家になった感がある。実は、彼は若き日、私と同じくニーチェやハイデッガーの哲学に夢中になったというが、その作品にはどこかに彼らの、特にハイデッガーの哲学の影が差している。李氏の立体作品は土、石、鉄板、ガラスなどを組み合わせ、そこに不思議な世界を創り出す。李氏によれば、彼の芸術は観念そのものでも現実そのものでもなく、その間にあって、両方から浸透されたものであるという。あるいはハイデッガーの「ダーザイン」（現存在）を表したものであろうか。李氏は哲学的な芸術に長年挑み続けたのであろうが、最近、その試みが成功し、みごとにメタフィジカルな芸術が生まれたと思う。



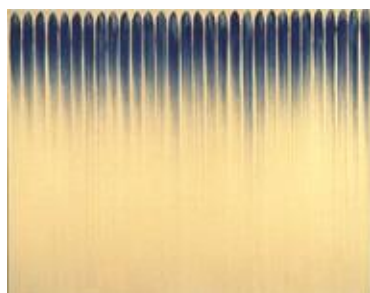
関係項（1987年制作）
岐阜県美術館蔵



関係項（1989年制作）



照応（1994年制作）
作家蔵



線より（1977年制作）
岐阜県美術館蔵



風より（1986年制作）
岐阜県美術館蔵